

【ねがいましては】

平成14年10月28日

第150号

KYOWA SCHOOL

「ぎらぎら」

先日、某テレビ局の番組内で、興味ある発言とでも言いましょうか。

「今やここ日本では、目がぎらぎらした若い方を見ることが少なくなりました。ところがここへ来ると皆さん『ぎらぎら』した目をなさっているんです。私はこのような方々に仕事を任せたいのです。・・・」といったようなことでしたか。（日本のある企業の方）

こことはどこか、『インド』なのだそうです。現在インドの義務教育では、小学校から2けたの九九や、複雑な計算、そして英語をかなり重点的に取り入れているのだそうです。何が狙いかといいますと、「ソフトプログラマーの育成」だそうです。計算力を身につけることで、複雑なプログラミングでの想像力のスピードアップ。英語力では、単語知識が豊富なので「プログラミング言語の短期習得」が可能になるのだそうです。現在インドの世界に対する「ソフト開発シェア」は、アメリカに次いで2位なのだそうです。

発展途上にある国「勢い」が垣間見られるドキュメントでした。

ここ日本・・・・・・

子供たちは今日も学校で「ぎらぎら」？

何かが拍子抜けてしまっているここ日本。わが将来に「夢・希望」を抱き、力強く歩こうとする若者たち・・・？

初めて「くりたのランチ、丸々一日勉強室」に小学2年生が参加しました。小学校に入学して1年と半年、えっ、えっという彼らの反応がうかがえました。さすがまだまだ、のびのびやってるぞという反応もあれば、もうここまで染まってしまったのか、という反応。

のびのび・・・この教室の特長とでも言いましょうか、「わかりません・わかりません」という声・・・そろばんの勉強です。そろばんの勉強では私は口をすっぱくして「わかりませんと言つてもつくることが良いことなんだよ。」と言っています。彼にとっては、そろばんはそういうものなのです。反面、算数の文章問題になったときに・・・！

その染まってしまった反応とは、やはり「まちがえは、悪いこと」という感覚です。彼の心の中には、学校から受け取ったものが宿りかけています。学校での一斉授業では、すべての勉強が「競争」というイメージを強く持ります。まちがえる・・ダメ、わからない・・ダメ。できる・・良い、わかる・・良い。といった感覚がウイルスのように自然に入り込みます。

非力な私がつくった絵本「君がいれば」の中に、こんな言葉が出てきます。

『ぼくは生まれて すぐすぐとそだった あたしかせてみたり チャレンジしてみたり
しっぱいはたのしかった でも・・・このごろ学校で とこもさみしくなるんだ だっこね まわりの子 ぼくがしっぱいすると からかうんだ このまえなんか 「いえーい♪さまー」なんこね ぼく・・・』

私はこのような光景が最も勉強嫌いになる一因ではないかと思っています。こどもたちは、あっちぶつかりこっちぶつかり成長します。身をもって体験して成長します。そんな彼らを温かく見守り、温かく励ます場が、

「学校」だと思っています。なぜなら失敗しても安全、まちがえても安全だからです。そんな彼らを温かく保護するところが学校だと思っています。

まだまだ2年生、失敗しても「ニコッ」、まちがえても「ニコッ」とできる教室作りに向けて私は歩きます。

こんな考え・・ここに通う中学生たちは皆、うんつうんってうなずいてくれているのが手に取るように見えます。必死になって彼らに文章問題を伝えようとした中学生の「Yちゃん」ありがとうね！のびのびやろうね！

11月の予定

11月 8日（金） 珠算・暗算検定試験申し込み締め切り

20日（水）～22日（金） 珠算・暗算検定試験・・KYOWA SCHOOL

※ 好評！「くりたのランチ講習」11月も予定します。 詳しくは別紙にてお知らせします。